



新発想企業探訪



同社が所有するアルゼンチンのパラデーロにある大豆畑

日本の食糧自給率は40%足らずといわれている。これは、主要先進国のなかでは最低水準。そんな現状を見据え、海外の農場で食糧を生産・確保を目指す企業が存在する。岐阜県中津川市が拠点の（株）ギアリンクスだ。

非常時の岐阜県内を中心とする食糧確保を目的とし、アルゼンチンで農産物の生産・販売・輸出を

行なう同社。県内の企業経営者

6名が役員を務め、資本金は市民

468名から1口10万円で合計

9200万円を募った。「1000

%の民間企業だが、目的は県民の

食糧確保。今までにないビジネス

モデルです」と中田智洋代表取締役

社長は語る。

同社のはじまりは00年。当時の

岐阜県知事の「非常時の食糧確保に

株式会社ギアリンクス

非常時に備えた食糧の “海外備蓄”を展開